



福井大学教育地域科学部附属

地域共生プロジェクトセンター

Regional Collaboration & Development Center

地域共生プロジェクトセンターとは

近年、地域社会は、子育てや高齢者・障害者福祉、健康・衛生、防災、居住環境や自然環境の保全、文化活動の継承・発展、経済活動の活性化、農山漁村の再生など、さまざまな課題への対応を迫られており、そのなかで、地域づくりの取り組みの必要性が叫ばれるようになりました。地域づくりには、住民・市民が主体となり、行政やCSO（Civil Society Organization 市民社会組織）、つまり何らかの公益性をミッションとするNPOや団体、社会的企業などと連携して取り組むことが求められます。そして、大学もまた、こうした地域づくりの担い手のひとつであることは言うまでもありません。特に地方大学にあっては、個々の教員の専門知識や研究活動の成果の提供にとどまらず、学生の教育や教員の研究のプロセスにおいても、住民・市民や行政、CSO、あるいは一般企業と連携することによって地域づくりに貢献することが期待されています。

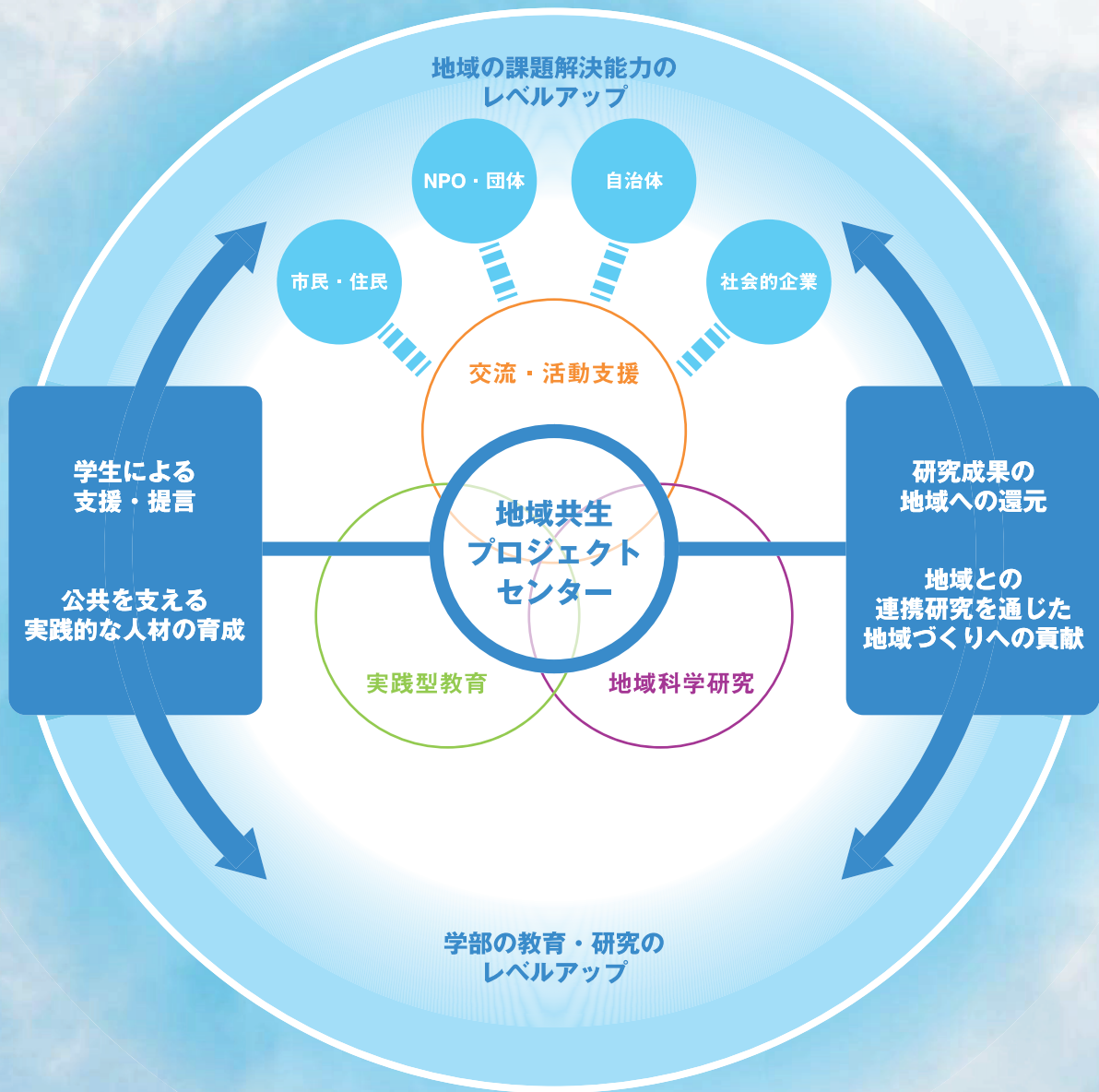
地域の中で、地域の人たちと共に、学校教育や幅広い地域の諸課題に取り組むことができる人材の育成。それを目標に、福井大学教育地域科学部では、これまで多くの教員の個別的な取り組みと実績が積み重ねられてきましたが、これからは、地域を対象とする教育・研究とその成果の地域社会への還元だけでなく、教育・研究のプロセスにおける地域づくりへの貢献（地域実践的な教育・研究）が組織的に推進される必要があり、その中核組織として、平成22年10月、地域共生プロジェクトセンターが設立されました。当センターの主たる目標は、教育地域科学部の構成員（教職員、学生・院生）と地域の住民・市民、行政、CSO、一般企業等との橋渡し役としての機能を果たすことにより、学部での教育・研究活動を質的にも量的にも拡充するとともに、学部および学部構成員が教育・研究活動を通じてさまざまな形で地域づくりに貢献することにあります。

地域共生プロジェクトセンターの 柱となる3つの取り組み

1. 地域実践型学生教育プログラムの推進

2. 地域科学研究の支援・推進

3. 地域との交流推進と地域の市民、団体等の活動支援



地域共生プロジェクトセンターの取り組み

1 地域実践型 学生教育プログラムの推進

地域共生プロジェクトセンターでは、地域の子どもや住民、行政などと連携しながら実践的な活動を通じて学生にさまざまな能力を身につけさせる、いわゆる地域実践型授業を充実させるために、こうした授業のいくつかをセンターのプロジェクトと位置づけてこれを支援し、地域と連携する新たな授業プログラムの創出を目指します。

この取り組みを通じて、学生の課題認識・解決能力、企画提案・コーディネート能力、コミュニケーション能力、地域に対する提言能力等が育まれることを、私たちは期待しています。

2 地域科学研究の支援・推進

地域科学研究は、国内のローカルな地域社会から国境を越えた世界の各地域まで、さまざまなレベルの「地域」の特性と諸課題を扱う研究であると私たちは考えています。センターは、こうした地域科学研究全体の底上げを図るとともに、地域の市民や団体との交流を促進することで、地域との連携や協働に基づく研究を支援・推進し、教員同士や教員と地域との共同プロジェクトを企画・推進します。

センターは、地域科学研究の成果を随時地域へ還元することにより、大学と地域との連携研究を通じた地域共生社会の実現を目指します。

3 地域との交流推進と 地域の市民、団体等の活動支援

センターは、地域づくりに携わる団体等に活動の場を提供することで、その活動自体を支援するとともに、大学と地域との相互交流の機会の創出に努めます。具体的には、協働団体に対して、センターの交流スペースや作業室、会議室等を利用できるよう便宜を図ります。

地域の市民や組織・団体と学部との交流を促進することにより、地域と連携した教育・研究活動の活性化を図ることが、この取り組みの目的です。

地域社会をはじめとする 外部への情報発信の推進

センターでは、地域実践型学生教育と地域科学研究の成果や地域と学部との交流状況等について、常時ホームページ (<http://fu-rcdc.net/>) を通じて広く情報を発信することにより、地域の学部に対する関心とニーズを喚起しながら、地域とのつながりをより強固なものにしたいと考えています。

運営組織

センターのスタッフは、センター長、副センター長（各1名：教育地域科学部教員より選出）、専任教員、兼任教員、客員教員及び事務職員から構成されます。兼任教員は、教育地域科学部地域科学課程担当教員がその任にあたりますが、必要に応じてその他の教育地域科学部教員が加わることもあります。客員教員は、地域の市民活動や教育活動における経験を踏まえて、センターのプロジェクトや地域参画型授業へのアドバイスをを行います。

Project 01

学生発信！駅前プロデュース in FUKUI

平成22年4月、福井駅周辺の活性化のあり方について問題意識を持つ学生有志により、福大EMP実行委員会が立ち上げられました。同委員会は、福井市および福井駅前周辺の活性化に取り組むNPO等各種団体との連携を通じて、勉強会や駅前フィールド・ワークを実施しながら活性化の可能性を探り、その成果は同年10月24日に開催された県内外の学生約50名によるワークショップを機に取りまとめられ、提案書が作成されました。

本プロジェクトは、地域に密着したまちづくりを進めるための社会教育活動を主体的に企画・実践・コーディネートできる人材の育成に寄与することを目的に企画されたものです。

Project 02

児童館における子どもの学習活動支援実習

福井市内の児童館（旭地区さつき児童館）において、小学校低学年の子どもたちを対象とした学習・文化活動を、学生自らが企画し、実践します。1年間にわたって企画会議における協議・検討を経て作成された企画書に沿って活動を実践し、その都度反省会を行って実践を振り返り、次の企画につなげます。年度末には実習全般の成果をまとめた報告書を作成します。

長期間の実習を通じて、討論・企画書作成・準備作業・企画進行等の実務力を養うとともに、市民の生涯学習を支援・コーディネートするのに必要な力量を育成することが、本プロジェクトの目的です。

Project 03

社会調査で探る地域課題

現代の地域社会が抱える諸課題について、社会調査法を活用した調査研究を学生参加で行い、年度ごとに報告書を作成して研究成果を公表・蓄積するとともに、それをホームページに掲載し、地域に発信していきます。調査の実施に当たっては、可能な限り、地域の諸団体や行政との連携・協働を追求します。

平成22年度には、「グリーンツーリズムと地域活性化」をテーマに、越前市のグリーンツーリズム団体「口ハス越前」との協働でアンケート調査に取り組み、地元で開かれたシンポジウムで調査結果について報告・議論しました。

Project 04

国際交流イベントを通じて 多文化共生社会の実現を目指すプロジェクト

福井県国際交流協会との連携に基づき、学生は毎年秋に開催される「福井国際フェスティバル」に、パネル展示等の個別の企画の担当者として、そして企画運営委員及び部会スタッフとして、企画立案の段階から参画します。

本プロジェクトに参加することにより、学生は、グループワークを通じて社会に出た後に必要とされる汎用的な能力を培うとともに、国際交流イベントに主体的に関わることで、将来的に地域社会と国際社会とを橋渡しできる人材、ひいては多文化共生社会の担い手となるための礎を築くことができます。

Project
05

福井市東郷地区まちづくりに学ぶプロジェクト

福井市の中でも特に先進的なまちづくりの取り組みがなされているのが東郷地区です。本プロジェクトでは、学生たちが同地区で展開されているまちづくりに関連するさまざまな事業や企画に参加し、まちづくり実践に関する調査や、地域との連携事業企画の提案を行います。

平成22年度には、米の加工食品化によるまちづくりを学生が提案し、地元産品を活かした地産地消ビジネスに取り組んでいる女性グループ「ちぎ（地祇）の会」との協働を進めるなか、8月には東郷地区最大の祭り「おつくね祭り」での店舗販売を支援しました。

Project
06

地域史料・古文書の整理活用プロジェクト

福井県文書館と連携し、同館が業務として行う古文書や地域史料の整理、そして展示や講座・講演等を通じた普及事業に学生が参加し、文書館業務の根幹ともいえる資料収集・調査活動のサポートも行います。また資料を用いた普及活動に学生が自ら取り組み、文書館や高等学校等におけるパネル展示・発表にも参加します。

本プロジェクトに参加することにより、学生は、郷土の歴史に対する知見を深め、将来教壇に立ち、社会科の授業づくりを行う際に役に立つ、効果的な郷土資料の使い方や学校外の文化機関との連携に関するノウハウなど、実践的な力量を形成することができます。

Project
07

地域連携ネットワークによる 子育て・発達障害者支援プロジェクト

近年の子育て環境や就労状況の変化の中で、発達障害者等への支援のあり方が学校や職場で問題となっていますが、就労を含めた障害者の社会的自立を果たすためには、生涯発達観の観点に立った社会性の育成に加えて、地域社会の理解・地域社会への啓発が必要となります。そのためには、障害の有無を問わず社会参加を目指すインクルージョンの理念のもと、学校と家庭や職場、行政・専門機関等が連携して支援に当たる必要があります。

本プロジェクトでは、発達障害や子育てに関して支援活動を展開する県内の団体や機関と協働し、社会性を育てる親子体験教室（脳トレKIDS）、福井を探求する親子教室（街育ネットワーク）、就労支援教室（AOZORA福井）、連絡協議会（発達障害研究会およびIDDネットワーク福井）、データベースの維持管理（子ども見守りシステム）等の活動を行い、「ダイバーシティ環境での地域連携協働型支援モデル」の構築を目指します。

地域共生プロジェクトセンターと就業力GP

教育地域科学部の取組である「世代間交流と地域参画活動が生み出す就業力」が、平成22年度、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）」に採択されました。この取組は、高校から大学、そして社会への移行期間に焦点を当て、地方における就労課題とキャリア教育の問題点を解決しながら、学生たちの就業力を育成することを目的としています。

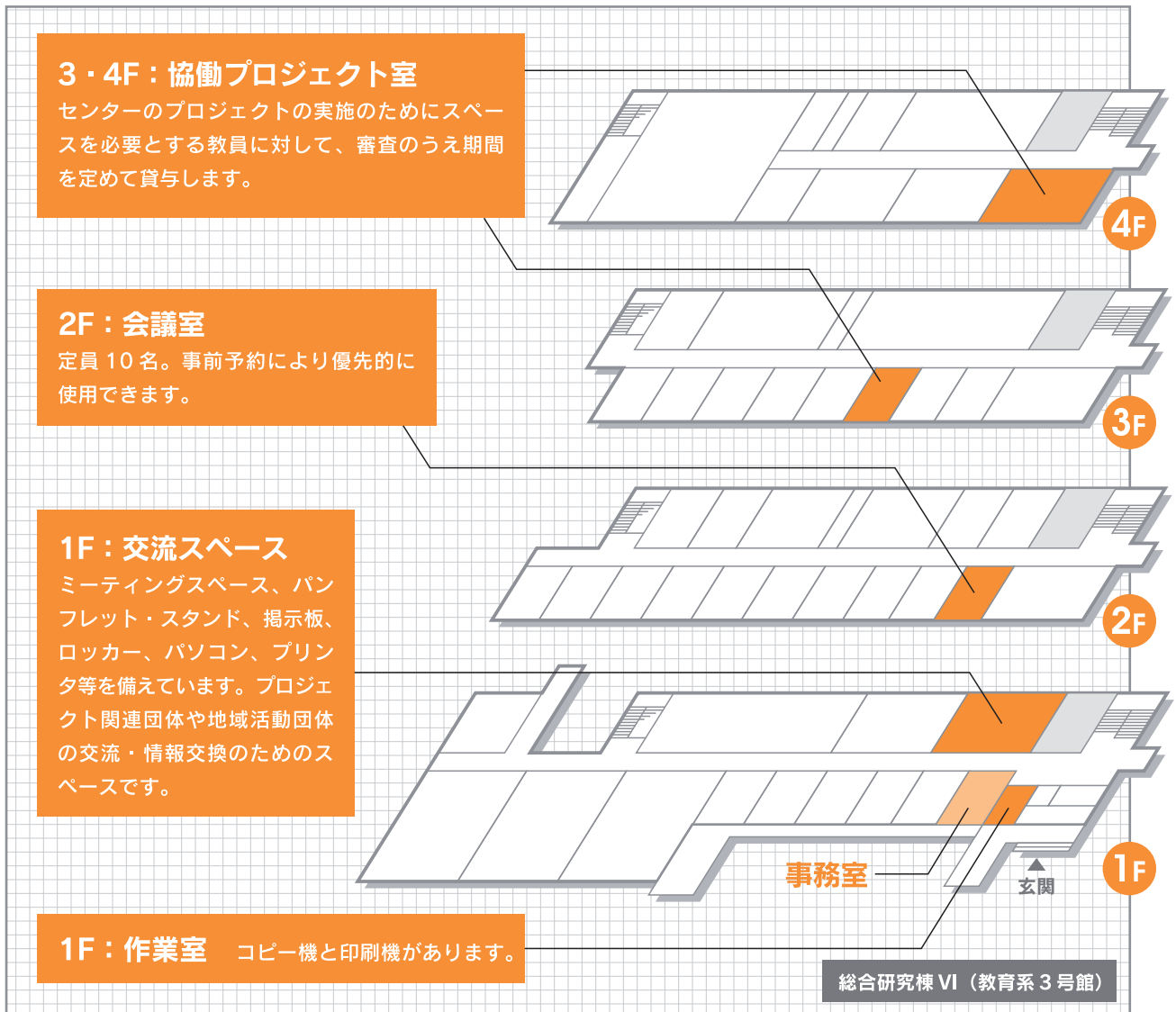
地方の国立大学教員養成系学部として、これまで本学部はさまざまな地域参画型授業を実施してきましたが、この取組では、その経験と成果を踏まえ、大学生の地域の社会・教育活動への参画をより積極的にサポートします。その成果は、大学における初年度教育や高校生を対象としたキャリア教育の場で発表され、世代間で意識や経験を共有し継承するサイクルの構築へとつながってゆきます。

センターはその中核的な実施組織として、ワークライフバランスのとれた大学生の就労意識と、就労への動機を醸成するための地域参画型授業づくりを進めています。

平成22年度には、以下の企画が実施されました。

- ・地域参画型授業の教育力に関するキックオフ・パネルディスカッションの開催（工学研究科との共催）
- ・新入生及び高校生向けのリーフレット「教育地域科学部の地域参画型授業」の作成
- ・センター創設記念フォーラム「福井大学教育地域科学部の地域参画型授業・教育プログラム～今日までそして明日から～」の開催

平成23年度には、これまで学校教育課程のみの科目であった「探究ネットワーク」と「ライフパートナー」が「地域実践参画科目」として地域科学課程の学生に対しても開講されます。また平成24年度には、地域科学課程の地域実践型科目の成果に基づく「地域づくり協働実践科目」が新規に開講される予定です。



※この他、音楽実習室（定員 50 名、有償）も所定の手続きにより利用することができます

地域活動団体の施設利用について

センターの承認を得た地域活動団体は、入室カードの貸与により、上記のセンターの施設を利用することができます（一部実費）。センターを利用できる地域活動団体の要件は、次のとおりです。

1 活動が、市民の自由で自発的な意思によって行われ、その活動の目的が、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与するものであり、次のいずれにも該当しない団体であること。

- i 専ら直接的に利潤を追求することを目的とする経済活動
- ii 宗教の教義を広め、儀式行事を行い、及び信者を教化育成することを主たる目的とする活動
- iii 政治上の主義を推進し、支持し、又はこれに反対することを主たる目的とする活動
- iv 特定の公職（公職選挙法（昭和 25 年法律第 100 号）第 3 条に規定する公職をいう。以下同じ。）の候補者（当該候補者になろうとする者を含む。）若しくは公職にある者又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とする活動

2 教育地域科学部の教員を連絡教員として指定できること。

連絡教員は、団体とセンターとの業務上の連絡を行うとともに、団体の利用状況について団体から適宜報告を受けます。また、団体が施設を利用する際に、連絡教員の立ち会いを求める場合があります。

※センター内外において、団体または団体の構成員に、法を犯す行為や公の秩序や善良な風俗に反する行為があった場合には、利用を取消すことがあります。

利用を希望される団体はセンターまでお問い合わせください。

福井へのアクセス

【京都・大阪方面から】

- J R** 京都・大阪 — 湖西線経由 — 福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車** 京都・大阪(名神) — 米原JC — (北陸) — 福井IC
(京都から約2時間、大阪から約2時間30分)
- 高速バス** 京都・大阪(名神・北陸) — 福井
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間30分)

【東京方面から】 ※高速バスもあります。

- 飛行機** 東京羽田 — 小松空港 — 福井
(飛行機1時間、連絡バス1時間)
- J R** 東京 — 米原経由 — 福井
(新幹線・特急3時間30分)
- 自動車** 東京(東名・名神) — 米原JC — (北陸) — 福井IC
(約6時間30分)

【名古屋方面から】

- J R** 名古屋 — 米原経由 — 福井
(新幹線・特急で約1時間40分、特急で2時間)
- 自動車** 名古屋(名神) — 米原JC — (北陸) — 福井IC
(約2時間)
- 高速バス** 名古屋(名神・北陸) — 福井
(約2時間50分)



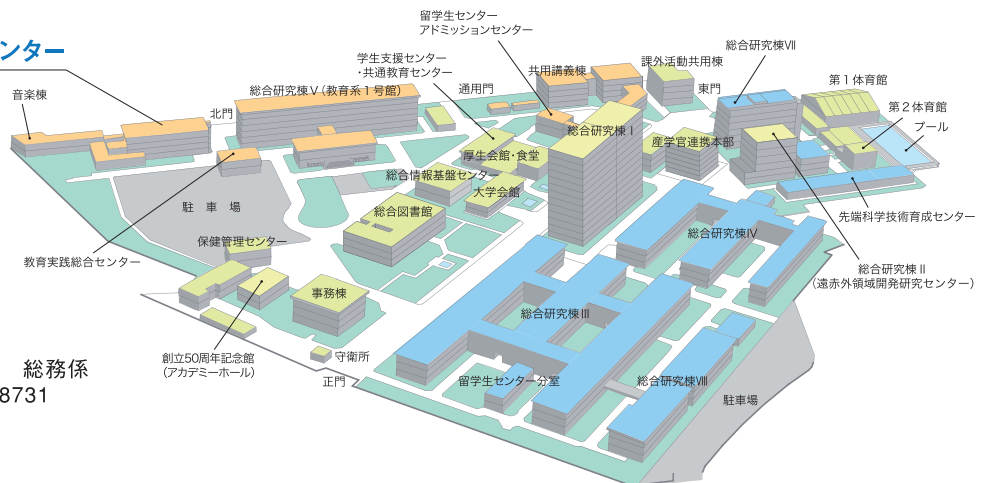
JR福井駅から文京キャンパスへの経路

- **バス**(約10分) JR福井駅 — 福井大学前 下車
[JR福井駅西口から出て市内バス10番のりば]
- **鉄道**(約10分) えちぜん鉄道福井駅 — 福井大学前 下車
[JR福井駅東口から出て三国芦原線]
※西口前の福井鉄道(路面電車)ではありません。
- **タクシー**(約10分) JR福井駅 — 福井大学文京 下車
[必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください]
- **北陸自動車道** 福井ICから国道158号線で西へ約8km
福井北ICから国道416号線で西へ約7km



地域共生プロジェクトセンター

総合研究棟VI (教育系3号館)



福井大学教育地域科学部附属

地域共生プロジェクトセンター

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号

問合せ 福井大学総務部教育地域科学部支援室 総務係

T E L 0776-27-8052 F A X 0776-27-8731

U R L <http://fu-rcdc.net/>

E-mail rcdc@ml.cii.u-fukui.ac.jp